

**文京区こども宅食プロジェクト
第7期（2023.10～2024.9）
インパクト・レポート
評価結果詳細**

**2025年10月
文京区こども宅食コンソーシアム**

目次

1. ニーズ評価詳細	3
1-1. 利用世帯の生活困難度の状況	3
(1) 利用世帯の生活困難度状況まとめ	4
(2) 要素1：低所得基準に該当する世帯の数	5
(3) 要素2：家計の逼迫	6
(4) 要素3：子どもの体験や所有物の欠如	8
2. アウトカム評価・インパクト評価詳細	10
2.1 指標と測定方法	10
2.2 評価結果まとめ	11
(1) ロジックモデル	11
(2) 一覧	12
2.3 評価結果の詳細	14
直接アウトカム（1）食事内容、食に関する課題が改善される	14
直接アウトカム（2）心理的ストレスが減少する	15
直接アウトカム（3）余剰時間が増加する	17
直接アウトカム（4）食費の負担が軽減される	20
直接アウトカム（5）社会資源を知っている、利用している	22
中間アウトカム（1）家族の関係がよりよくなる	23
2.4 利用者インタビュー	24

1. ニーズ評価詳細

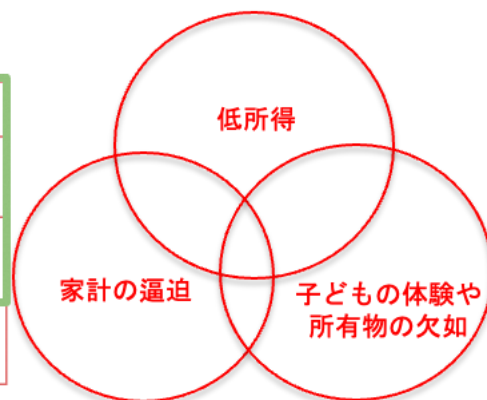
1-1. 利用世帯の生活困難度の状況

文京区こども宅食プロジェクトでは、**利用世帯の実態と取り組みの妥当性・適切性**を確認するために、**「生活困難度」指標**を使って定期的に宅食利用世帯の困難度を多角的に検証している。

第9回アンケート調査に回答した608世帯のデータを **低所得、家計の逼迫、子どもの体験や所有物の欠如**、の3つの要素に基づき、①困窮層、②周辺層、③一般層の3つに分類した結果は以下のとおりである。

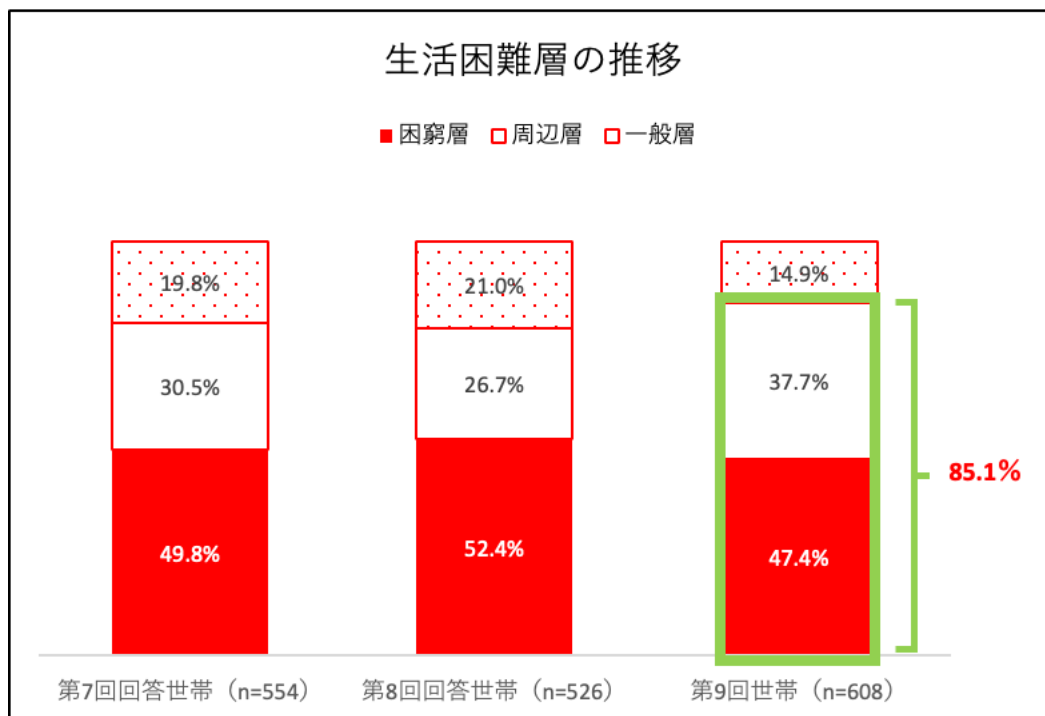
◇生活困難の分類方法と要素◇

生活困難層		困窮層+周辺層
①困窮層		2 つ以上の要素に該当
②周辺層		いずれか1つの要素に該当
③一般層		いずれの要素にも該当しない



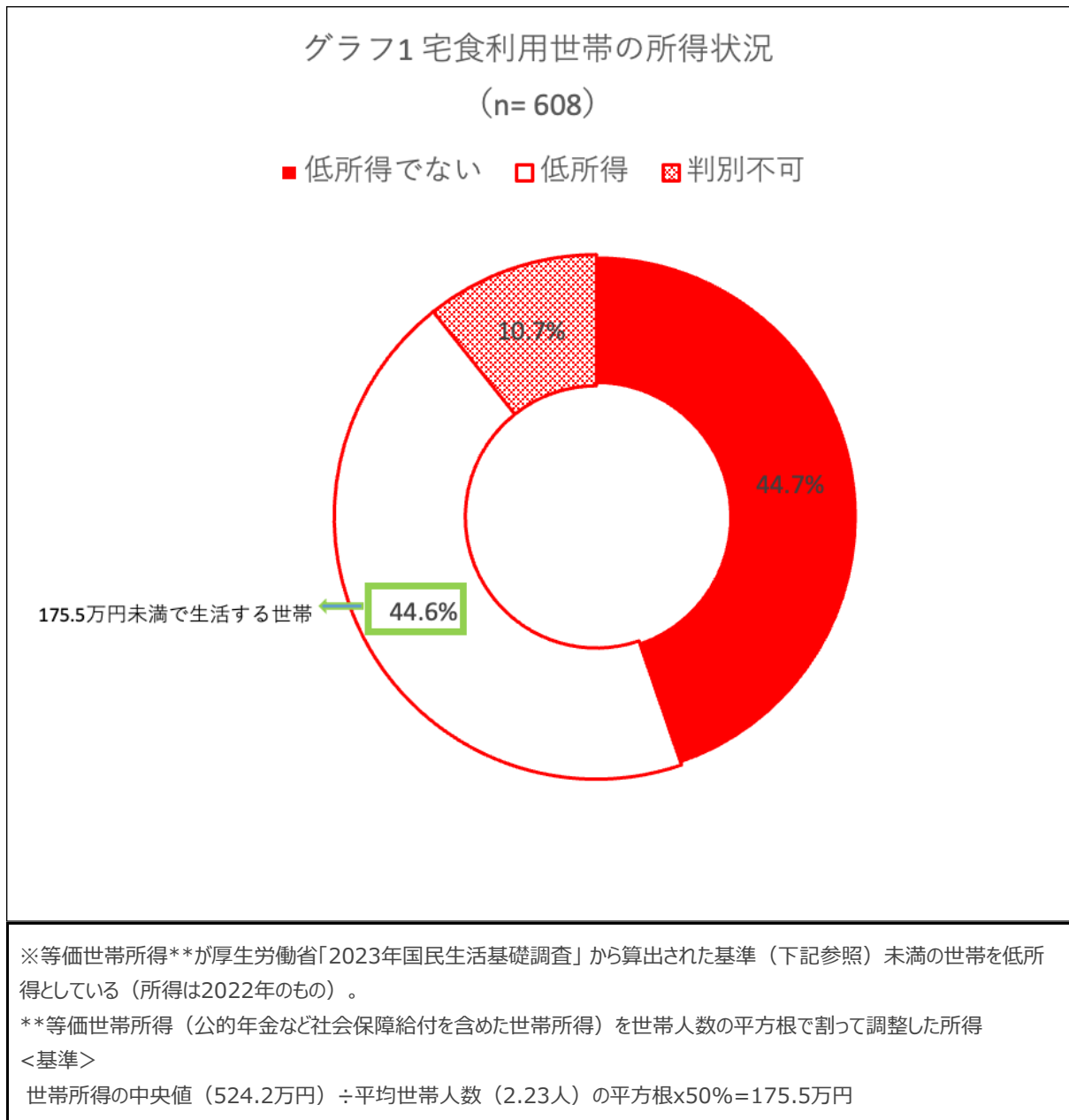
(1) 利用世帯の生活困難度状況まとめ

回答世帯の85.1%（未回答などの欠損値を除いた数値）が生活困難層（①困窮層＋②周辺層）に該当していることが分かった。



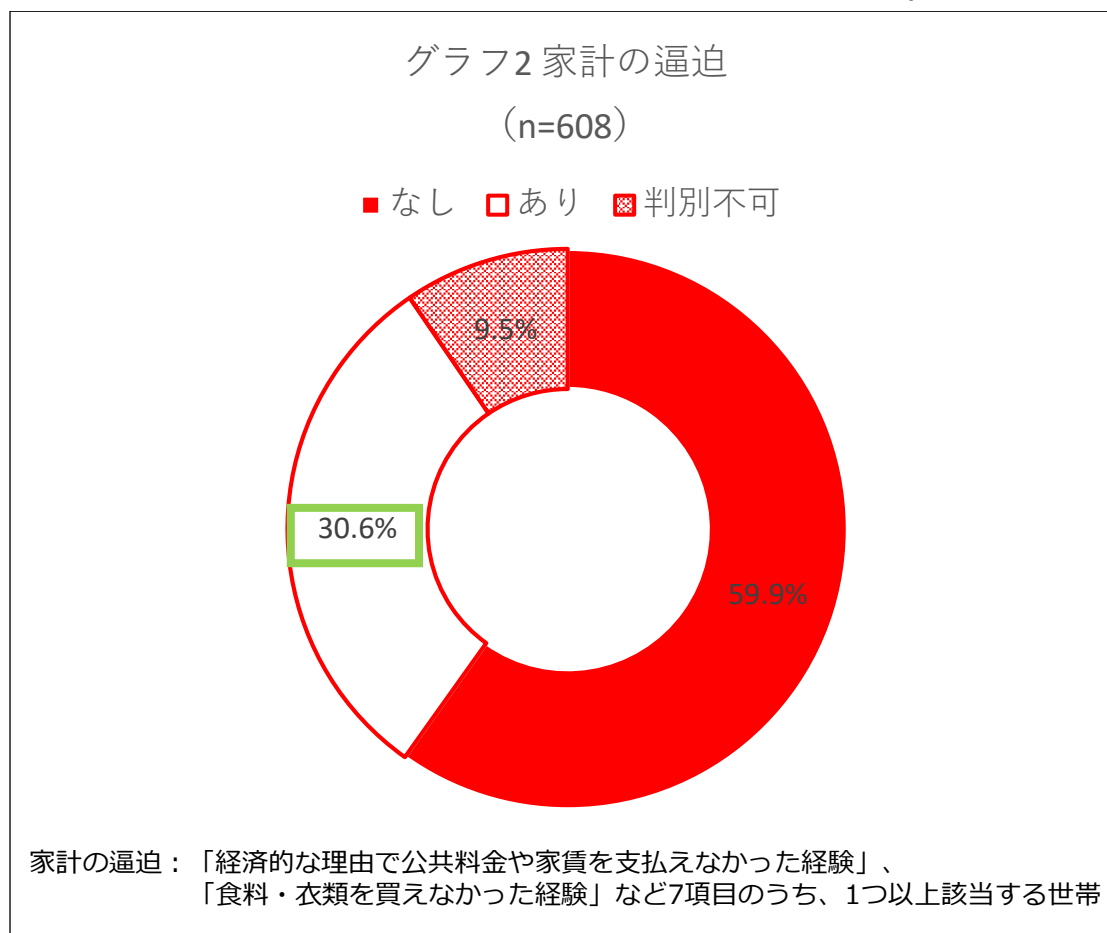
(2) 要素1：低所得基準に該当する世帯の数

こども宅食の利用世帯を東京都調査で用いられている低所得基準※にて分類してみると、**利用世帯の44.6%が等価世帯所得** 175.5万円以下の低所得基準に該当している**。前回の調査（43.5%）から若干の増加となった。



(3) 要素2：家計の逼迫

家計の逼迫がある世帯は回答世帯の**30.6%**にあたり、前回（35.4%）よりも減少した。



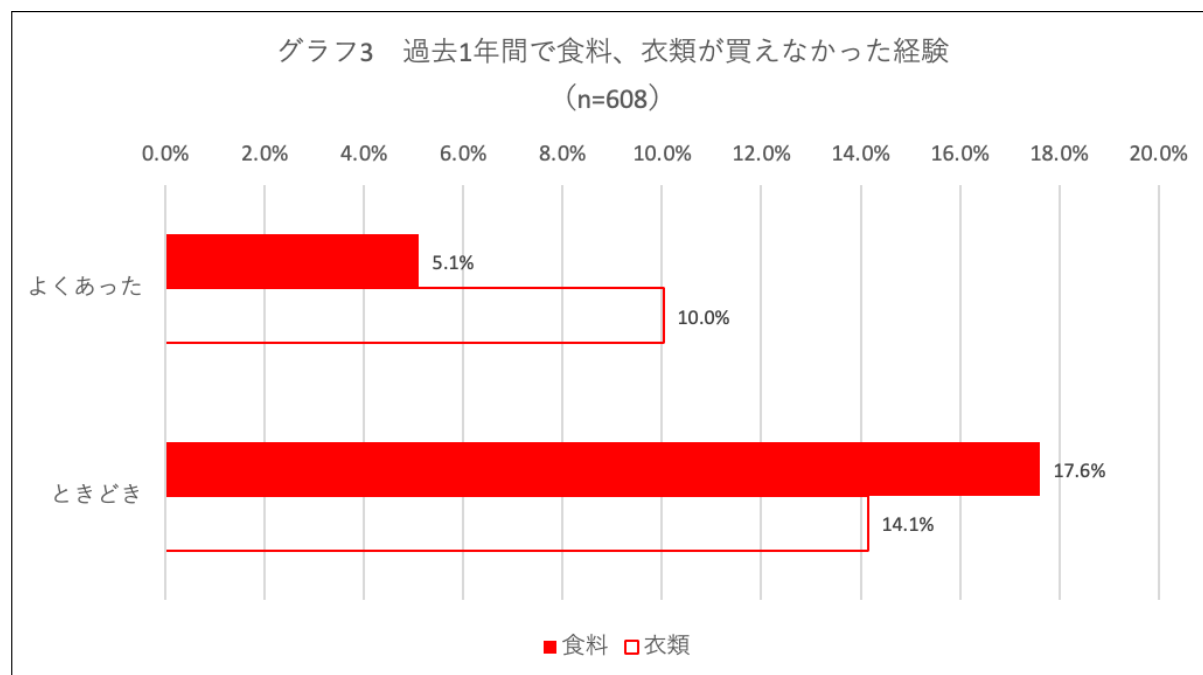
過去1年間で支払えなかった公共料金を各項目別に見ると、家計の逼迫の指標に含まれる項目の中で最も割合が高いのは**電気（10.5%）**で次に**電話（9.9%）**であった。

過去1年間で公共料金や家賃を支払えないことがあった経験のある人の割合

	第9回回答世帯（n=608）	第8回回答世帯（n=526）
電話	9.9%	10.3%
電気	10.5%	10.3%
ガス	9.4%	9.3%
水道	7.4%	7.6%
家賃	9.7%	10.7%
住宅ローン*	1.6%	1.2%
その他の債務*	11.0%	10.5%

*家計の逼迫の指標には含まれていない。

●過去1年間で経済的な理由により、**22.7%が食料が買えなかった経験**、**24.1%が衣類が買えなかった経験がある**（「よくあった」、「ときどき」の合計）。食料を買えなかった経験の割合は前回を上回る結果となった。

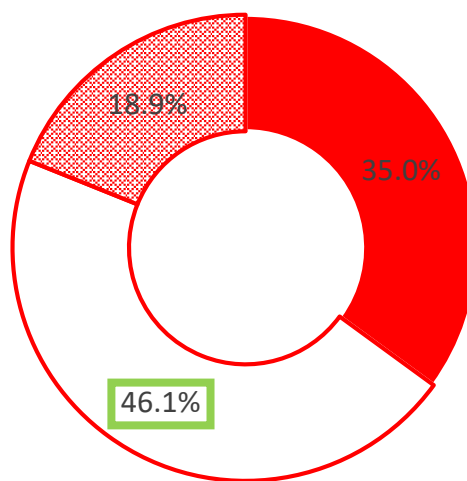


(4) 要素3：子どもの体験や所有物の欠如

経済的な理由により、利用世帯の46.1%に子どもの体験や所有物の欠如がある（前回は57.0%）。

グラフ4 子どもの体験や所有物の欠如の有無
(n=608)

■ なし □ あり ▨ 判別不可



子どもの体験や所有物の欠如：

グラフ5の横棒グラフの項目のうち、「13. 子どもの学校行事などへ親が参加する」を除いた子どもの体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当する世帯。

- 体験（項目1～5）においては「遊園地やテーマパークに行く」ことが「ない」世帯が最も多く、31.7%に上る。
- 支出（項目6～13）においては「1年に1回程度家族旅行に行く」ことが「ない」世帯が最も多く、48.7%に上る。
- 所有物（項目14～16）においては「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が「ない」世帯が最も多く、36.3%に上る。



2. アウトカム評価・インパクト評価詳細

2.1 指標と測定方法

アウトカム評価、インパクト評価を実施するために、以下のとおり、アウトカムごとに指標、測定方法を設定した。

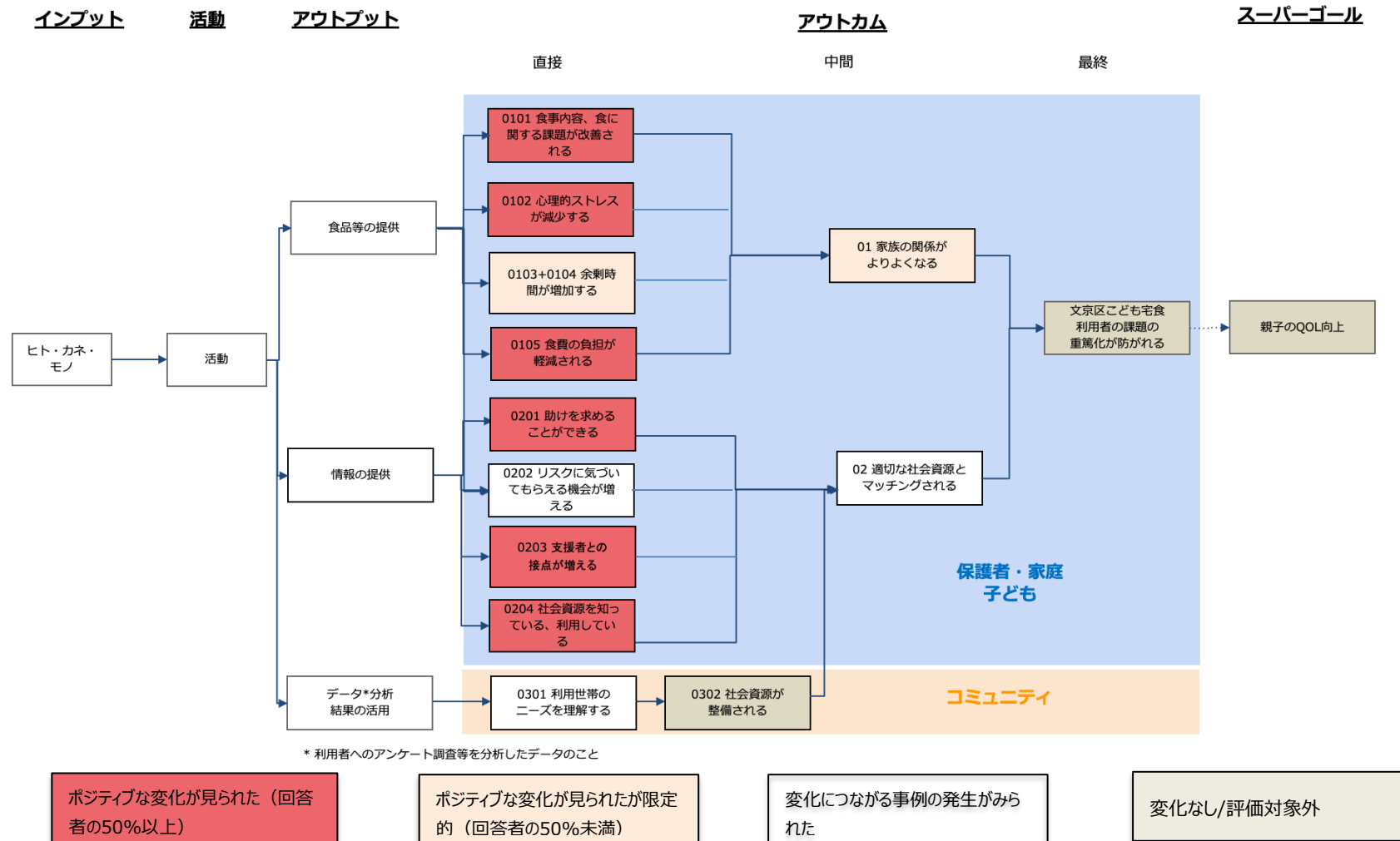
※灰色の箇所は評価対象外

アウトカムの種類	アウトカム	ステークホルダー	指標（判断基準）	測定方法	アンケート調査 該当設問
スーパーゴール	親子のQOLの向上	保護者・家庭、子ども			
最終アウトカム (上位目的)	文京区子ども宅食利用者の課題の重篤化が防がれる	保護者・家庭、子ども	課題を抱える人の状況の悪化が防がれる。		・現在の生活や子育ての中での困りごとについて、ご家庭の状況についてあてはまるものをお選びください。 ・生活困難度調査に関わる設問
中間アウトカム	家族の関係がより良くなる	保護者・家庭、子ども	家族関係の変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	子ども宅食利用前と現在を比較して、あなたと家族（子どもやパートナーなど）の関係に変化はありましたか。
直接アウトカム	食事内容、食に関する課題が改善される	保護者・家庭、子ども	家庭の食事内容 食事に関する課題の変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	・ご家族の食に関する課題として感じているものを選択してください。 ・子ども宅食の利用前と現在を比較して、ご家庭の食事内容に変化はありましたか。
	心理的ストレスが減少する	保護者・家庭、子ども	保護者の精神状態の変化 保護者の気持ちの変化 子どもの態度の変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	K6指標（「こころの健康」をチェックする指標）【設問内容は第9回アンケート間12を参照】 子ども宅食の支援を受ける前と後での気持ちの変化についてお答えください。また、その変化は子ども宅食の利用が影響していると思いますか。 子ども宅食の利用前と現在を比較して、お子さんの態度に変化はありましたか。
	余剰時間が増加する	保護者・家庭、子ども	保護者の宅食によって節約できた時間 節約できた時間を利用してできたこと 節約できた時間が子どものために使われているか 体験の時間の変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	子ども宅食を利用したことにより、これまで買い物や調理に使っていた時間が減るなどして一か月のあいだに自由な時間は増えましたか。その時間を利用して何かできたことはありますか。 ・子ども宅食が提供する「体験の機会」を利用したことはありますか。 ・「体験の機会」を利用したことによる、お子さんやご家族の変化についてお答えください。
	食費の負担が軽減される	保護者・家庭、子ども	節約できた金額 節約できた金額によって何ができたか	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	子ども宅食を利用したことにより、一か月に節約できた金額（食費や買い物に行く交通費など）がある場合は教えてください。節約したお金でどのようなことができたか。
	中間アウトカム 適切な社会資源とマッチングされる	保護者・家庭、子ども	相談相手（場所）の有無（「相談相手がおらず、ほしい」という人の割合の減少）	第9回利用世帯アンケート調査	お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所はありますか。
			子ども宅食をきっかけにした支援やサポートへの接続	コンソーシアム活動全般	（アンケート調査該当設問はなし）
直接アウトカム	利用世帯のニーズを理解する	コミュニティ	コンソーシアムへの問い合わせ等 コミュニティからの支援の増加（寄付など）	コンソーシアム活動全般	（アンケート調査該当設問はなし）
	社会資源が整備される	コミュニティ	子ども宅食がきっかけとなり、利用者の生活圏域に新たな支援サービスや機会などが生まれる	コンソーシアム活動全般	（アンケート調査該当設問はなし）
	支援者との接点が増える	保護者・家庭、子ども	宅食の手渡し率の増加 配達時の関わり方の変化 オンライン等での利用者とのコミュニケーションの回数の増加 オンライン等での利用者とのコミュニケーション内容の変化	コンソーシアム活動全般 利用者インタビュー	（アンケート調査該当設問はなし）
	リスクに気づいてもらえる機会が増える	保護者・家庭、子ども	利用者からの援助希求回数利用者からの自発的なコミュニケーションの増加（相談・雑談など）	コンソーシアム活動全般 利用者インタビュー	・子ども宅食のLINEで個別の相談・問い合わせをしたことがありますか。 ・子ども宅食では、暮らしや子育てににくい、専門的な資格のあるチャット相談スタッフにLINEで気軽に相談ができます。チャット相談スタッフに相談したいことなどがありましたら個別にLINEにてご連絡させていただきます。チャット相談スタッフからの連絡を希望しますか。
	助けを求めることができる	保護者・家庭、子ども	利用者からの援助希求回数利用者からの自発的なコミュニケーションの増加（相談・雑談など）	コンソーシアム活動全般	
	社会資源を知っている、利用している	保護者・家庭、子ども	支援サービスを知っている、利用している割合の変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者満足度調査他 利用者インタビュー	あなたはこれまでに以下のサービスや窓口を利用したことはありますか。 子ども宅食事務局からLINEにて、様々なお役立ち情報をお届けしてきました。お役立ち情報を見てからのご自身の行動としてあてはまるものを全て選んでください。

※実際のアンケート設問は「[文京区子ども宅食アンケート調査票](#)」を参照

2.2 評価結果まとめ

(1) ロジックモデル



(2) 一覧

※灰色の箇所は評価対象外

アウトカムの種類	アウトカム	ステークホルダー	指標（判断基準）	測定方法	結果・進捗	詳細ページ
スーパーゴール	親子のQOLの向上	保護者・家庭、子ども				－
最終アウトカム (上位目的)	文京区子ども宅食利用者の課題の重篤化が防がれる	保護者・家庭、子ども				－
中間アウトカム	01 家族の関係がより良くなる	保護者・家庭、子ども	家庭環境、生活環境の状況・変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	家庭、生活環境においては、回答世帯の85.1%（未回答などの欠損値を除いた数値）が生活困難層（①困窮層＋②周辺層）に該当していることが分かった。	pp.3-9
			家族関係の変化		生活における困りごとにおいては、約40%が宅食の利用により食費の負担が改善されたと回答している。	-
	0101 食事内容、食に関する課題が改善される	保護者・家庭、子ども	家庭の食事内容 食事に関する課題の変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	宅食利用前との比較で、約47%が「家族との関係」が良くなったと回答している。親の気持ち、子どもの態度の変化が影響していると考えられる。	p.23
					食の課題として回答者の約49%が「栄養/バランスがよくない、偏りがある」と感じている。	-
	0102 心理的ストレスが減少する	保護者・家庭、子ども	K6指標	第9回利用世帯アンケート調査	約71%が食事内容に変化が見られたと回答している。具体的には、「料理を作る頻度が増えた（28.6%）」、「食事の品数が増えた（25.5%）」を挙げる人が多い。	p.14
			保護者の気持ちの変化	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	回答者の36%が精神的な不調を感じている。比率としてはこれまでと大きな変化はない。	-
			子どもの態度の変化		保護者の気持ちについて、宅食の利用前後での変化量を見たところ、「安心して生活できている（36.8ポイントUP）」、「社会とのつながりを感じる（36.9ポイントUP）」、という回答が多く、宅食の利用が気持ちの変化に影響していることがうかがえる。	p.15
					約50%が子どもの態度に変化ありと回答している。具体的には「笑顔が増えた（29.7%）」、「会話ができた（20.7%）」という回答が多い。	p.16
直接アウトカム	0103+0104 余剰時間が増加する	保護者・家庭、子ども	宅食によって増えた自由な時間 増えた自由な時間を利用してできたこと 増えた自由な時間が子どものために使われているか	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	・40%の人が宅食の利用により自由な時間が増えたと回答している（平均節約時間：約45分）。 ・自由な時間が増えたことで、「休憩をとることができるようになった（64.1%）」、「子どもと過ごす時間が増えた（48.8%）」と回答した人が多い。	pp.17-18
			体験の時間の変化	第9回利用世帯アンケート調査 「体験の機会」利用後アンケート	・回答者の約54%が本プロジェクトが提供している「体験の機会」を利用したことがあると回答している。 ・利用した世帯に子どもや家族の変化について聞いたところ、「子どもにとって新しい経験・体験ができた（67.9%）」、「子どもと過ごす時間をつくることができた（48.3%）」という回答が多かった。	p.19
	0105 食費の負担が軽減される	保護者・家庭、子ども	節約できた金額 節約できた金額によって何ができたか	第9回利用世帯アンケート調査 利用者インタビュー	・約68%の人が宅食の利用により食費を節約できたと回答している（平均節約金額：約3,588円）。 ・食費が節約できたことで、「他の食品を買った（55.9%）」、「生活に必要なものにあてた（52.6%）」と回答する人が多い。 ・昨今、米の不足、高騰が続いているため、米が必ず提供されることに安心感を得ている利用者が多い。	pp.20-21

ポジティブな変化が見られた（回答者の50%以上）

ポジティブな変化が見られたが限定的（回答者の50%未満）

変化につながる事例の発生がみられた

変化なし/評価対象外

アウトカムの種類	アウトカム	ステークホルダー	指標（判断基準）	測定方法	結果・進捗	詳細ページ
中間アウトカム	02 適切な社会資源とマッチングされる	保護者・家庭、子ども	相談相手（場所）の有無（「相談相手がおらず、ほしい」という人の割合の減少）	第9回利用世帯アンケート調査	回答者の約17%が「相談相手（場所）がおらず、ほしい」と回答しておりその割合に変化はない。	—
			こども宅食をきっかけにした支援やサポートへの接続	コンソーシアム活動全般	・個別の相談や支援依頼があった場合は、適切な情報の提供や支援機関をお知らせするなどの活動を継続している。 ・利用者からの相談や問い合わせが増加傾向にあり、食の支援に限らず、「困った時の寄りどころ」として認識されていることも伺える。	—
直接アウトカム	0201 助けを求めることができる	保護者・家庭、子ども	利用者からの援助希望回数利用者からの自発的なコミュニケーションの増加（相談・雑談など）	コンソーシアム活動全般	LINEで双方向のコミュニケーションを行うことにより、利用者からの自発的な相談や不安、悩みごとの吐露につながっている。また、利用世帯からのニーズが高い情報を中心に、プッシュ型の情報配信を積極的にすすめることで、利用者からの援助希望回数の増加がみられており、情報配信をきっかけに相談につながるケースも生まれている。	インバクト・レポート概要版 p.41
	0202 リスクに気づいてもらえる機会が増える	保護者・家庭、子ども	利用者の実感確認頻度の増加と多面化	第9回利用世帯アンケート調査 コンソーシアム活動全般	引き続き、配送前後の丁寧な連絡や、「体験の機会」の提供による接点の確保により、利用者の実感確認頻度の増加と多面化を図っている。	
	0203 支援者との接点が増える	保護者・家庭、子ども	宅食の手渡し率の増加 配送時の関わり方の変化 オンライン等での利用者とのコミュニケーションの回数の増加 オンライン等での利用者とコミュニケーション内容の変化	コンソーシアム活動全般 利用者インタビュー	「体験の機会」の提供を活用した利用者とのコミュニケーション機会の多面化なども試みている。 見守りを強化すべく、手渡し率の増加に努めた結果、前回を上回る約74%を達成した。冷凍食品の配送などを通じて、利用者の実感確認の頻度の増加と多面化を図った。	インバクト・レポート概要版 p.37 インバクト・レポート概要版 p.29
	0204 社会資源を知っている、利用している	保護者・家庭、子ども	支援サービスを知っている、利用している割合の変化	第9回利用世帯アンケート調査 コンソーシアム活動全般 利用者満足度調査 利用者インタビュー	・本プロジェクトのLINEでの情報配信の平均開封率は60.2%となっており、高い開封率を維持している。また、「実際に制度やサービスに申し込んだ（42.1%）」との回答が最も多く、社会資源へのアクセスや利用につながっていることが伺われる。 ・宅食からの情報提供により、実際に地域資源を活用する事例も生まれてきている（例：制服・学用品リサイクルショップや地域イベントへの参加）。	p.22
	0301 利用世帯のニーズを理解する	コミュニティ	コミュニティからの問い合わせ数が増加する（関係団体からの協力依頼など） コミュニティからの支援の増加（寄付など）	コンソーシアム活動全般	利用者への情報提供等で、関係団体との連携が進んでいる。 文京区民や文京区所在の企業などからの寄付や「体験の機会」の寄付が継続している。	— —
	0302 社会資源が整備される	コミュニティ	こども宅食がきっかけとなり、利用者の生活圏域に新たな支援サービスや機会などが生まれる	コンソーシアム活動全般		—

ポジティブな変化が見られた（回答者の50%以上）

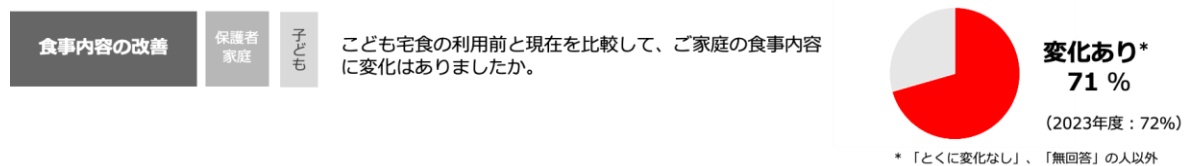
ポジティブな変化が見られたが限定的（回答者の50%未満）

変化につながる事例の発生がみられた

変化なし/評価対象外

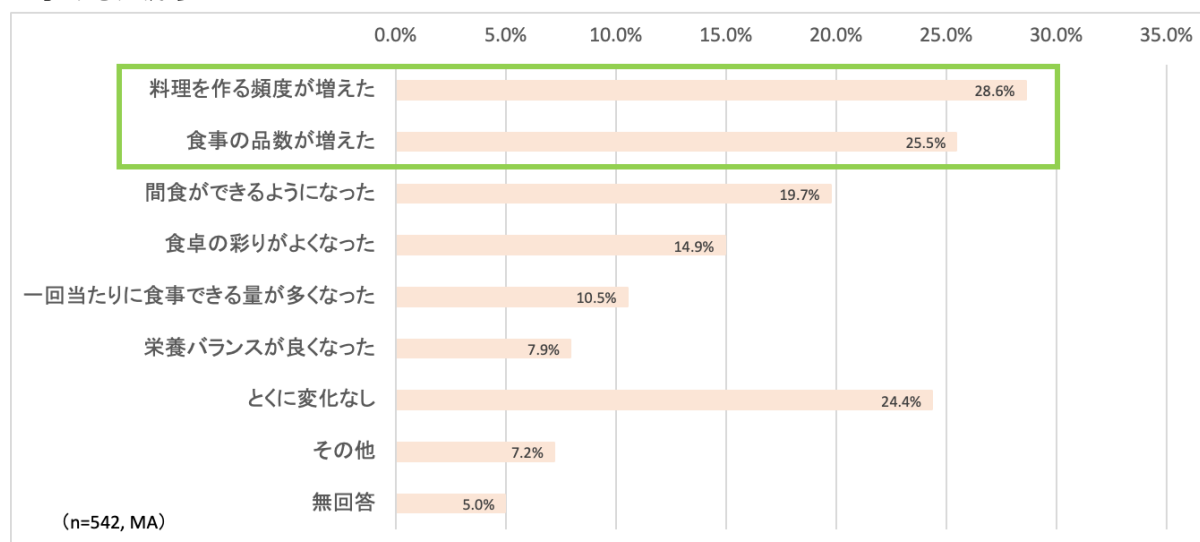
2.3 評価結果の詳細

直接アウトカム（1）食事内容、食に関する課題が改善される



約71%が食事内容に変化が見られたと回答している。

具体的には、「**料理を作る頻度が増えた（28.6 %）**」、「**食事の品数が増えた（25.5%）**」を挙げる人が多い。



「その他」の回答例：

- はじめての食品を試すことができた。
- 普段作らないものを作る機会が増えた。

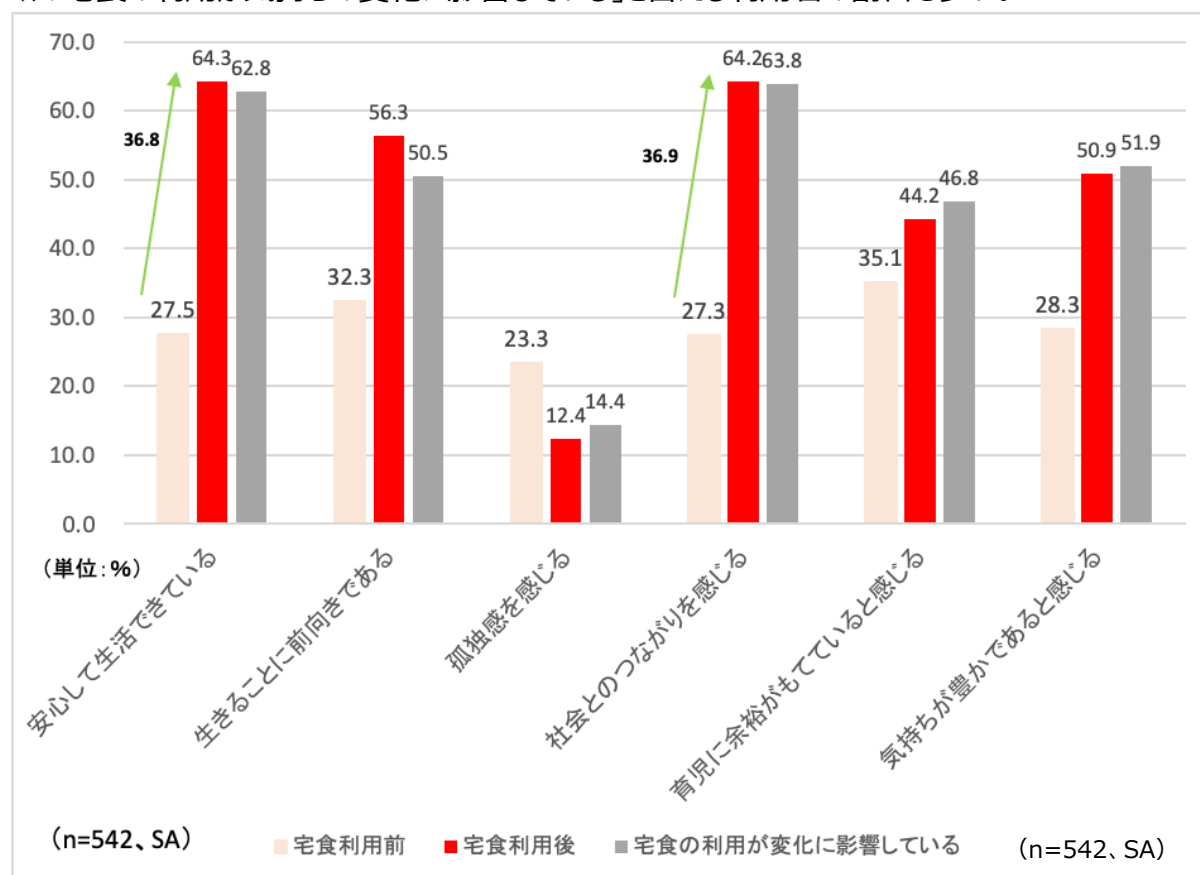
直接アウトカム（2）心理的ストレスが減少する

精神状態の改善

保護者
家庭

こども宅食の支援を受ける前と後でのあなたの気持ちの変化についてお答えください。

保護者の気持ちについて、宅食の利用前後での変化量の差をみたところ、「**安心して生活できている**（36.8ポイントUP）」、「**社会とのつながりを感じる**（36.9ポイントUP）」の変化量が多く、「宅食の利用が気持ちの変化に影響している」と答える利用者の割合も多い。



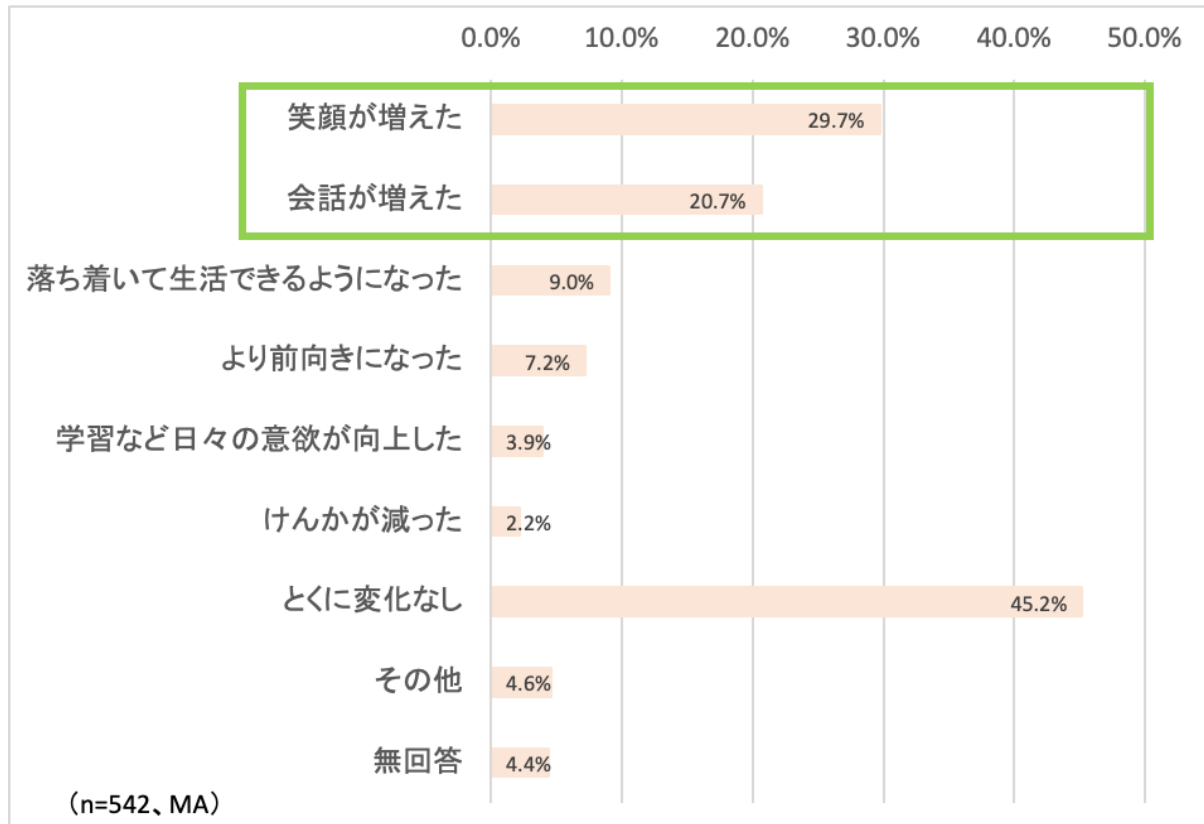


変化あり*
50%

(2023年度：49%)

* 「とくに変化なし」、「無回答」の人以外

約50%が子どもの態度に変化ありと回答している。具体的には、「**笑顔が増えた** (29.7%)」、「**会話が増えた** (20.7%)」の回答が多い。



「その他」の回答例：

- 食品をありがたく感じるようになった。
- 私に余裕ができることもあり、声かけなどお互いに柔らかくなった。

直接アウトカム（3） 余剰時間が増加する

増えた時間

保護者
家庭

こども宅食を利用したことにより、これまで買い物や調理に使っていた時間が減るなどして一か月のあいだに自由な時間は増えましたか。増えた場合はどれくらいになりますか。

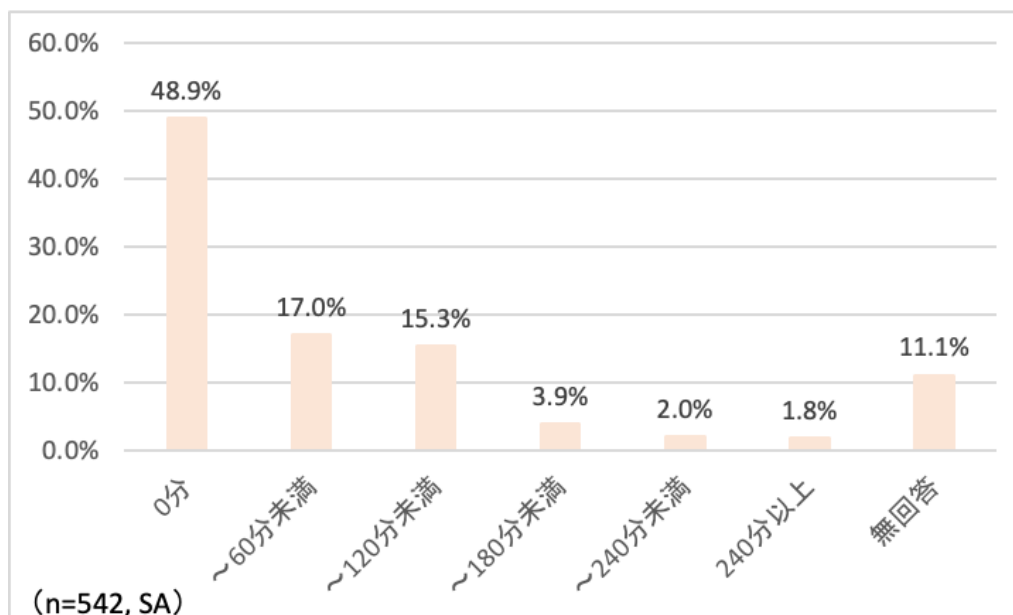


増えた*
40%

(2023年度：41%、約28分)

*「0分」、「無回答」の人以外

約40%の人が宅食の利用により自由な時間が増えたと回答している（平均節約時間：約45分）。

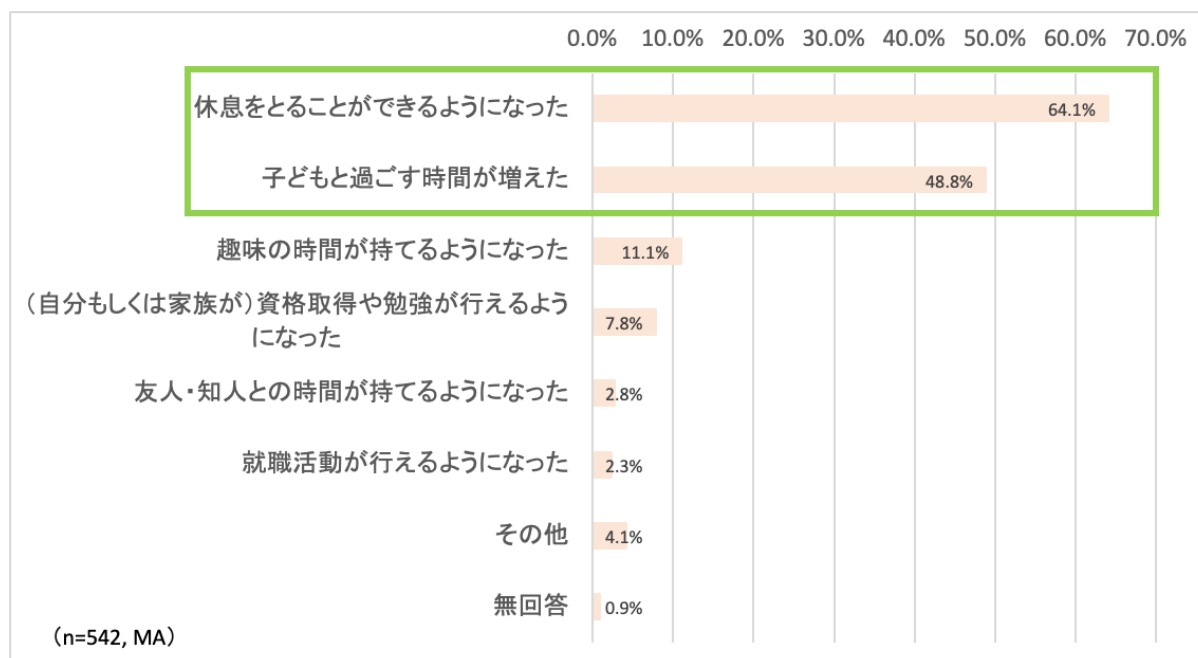


追加でできたこと

保護者
家庭

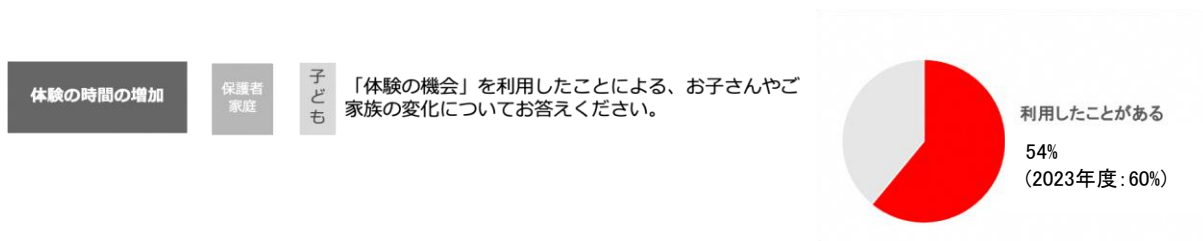
(余剰時間が増えた40%の方への質問)
その時間を利用して、何かしたことはありますか。

時間が節約できたことで、「**休息をとることができるようになった** (64.1%)」、「**子どもと過ごす時間が増えた** (48.8%)」と回答する人が多い。



「その他」の回答例：

- 就業時の休憩時間に余裕が出来た。
- 自分らしく過ごせる。

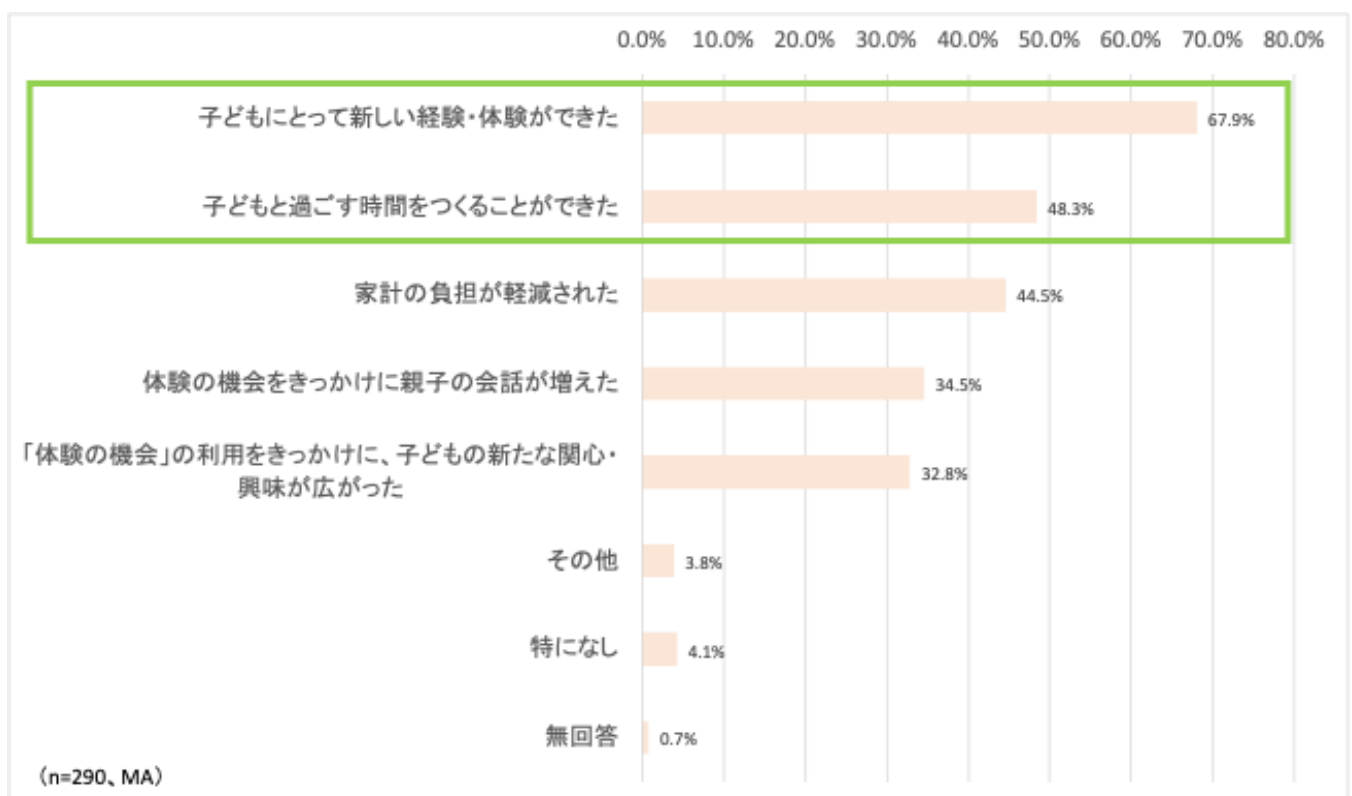


前掲（p.8参照）のとおり、子どもの体験や所有物において、利用世帯の46.1%に欠如がみられる。

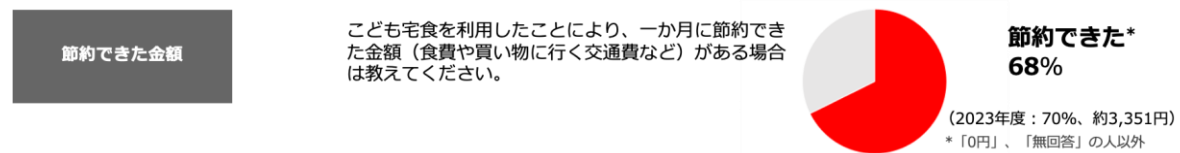
本プロジェクトでは、宅食の利用によって生まれた余剰時間が、親子で過ごす体験の時間につながるよう、絵本や玩具、スポーツ観戦やコンサートチケットなど、親子の体験の時間の創出につながる、様々な「体験の機会」の提供を行っている。アンケートでは回答者の約54%が、本プロジェクトが提供している「体験の機会」を利用したことがあると回答している。

利用した世帯に子どもや家族の変化について聞いたところ、「子どもにとって新しい経験・体験ができた」、「子どもと過ごす時間をつくることができた」という回答が多かった。

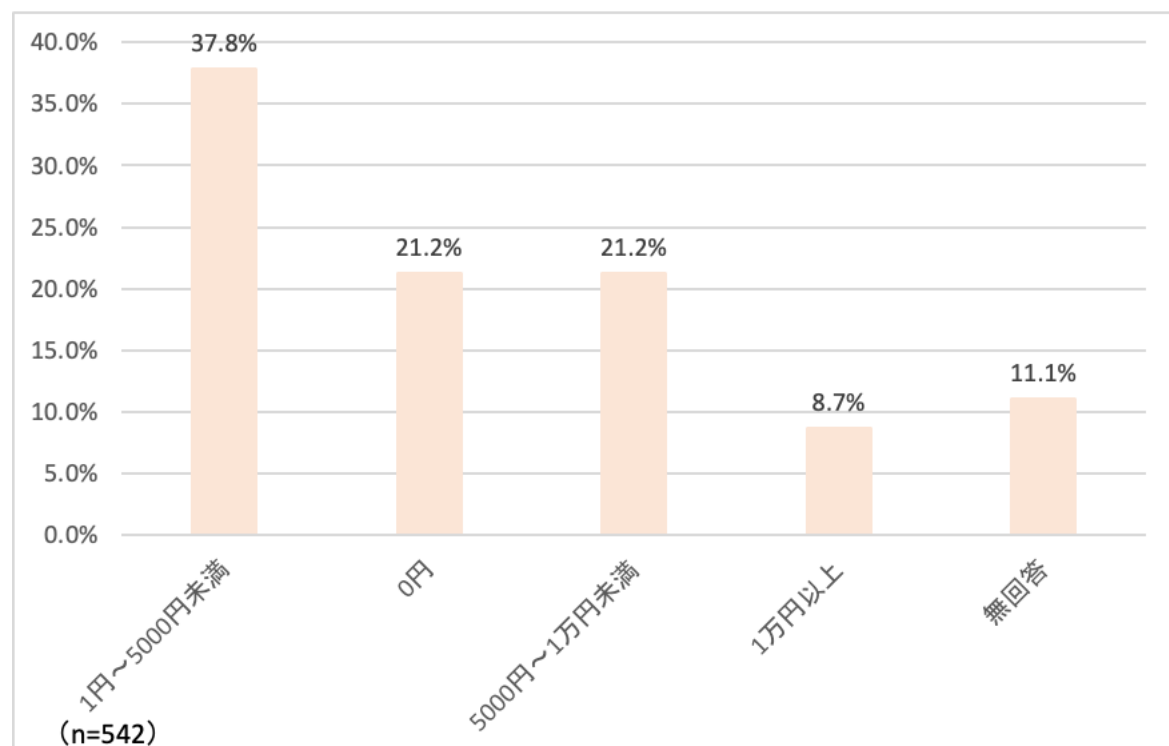
「体験の機会」の提供を通して、利用者と多様な接点が生まれることにより、ご家庭での悩みの吐露や相談につながり、利用者とのコミュニケーションやさらなるサポートにつながるケースも生まれてきている。



直接アウトカム（4） 食費の負担が軽減される



約**68%**の人が宅食の利用により食費を節約できたと回答している（平均節約金額：約3,588円）。食費の負担軽減に一定程度貢献したといえる。



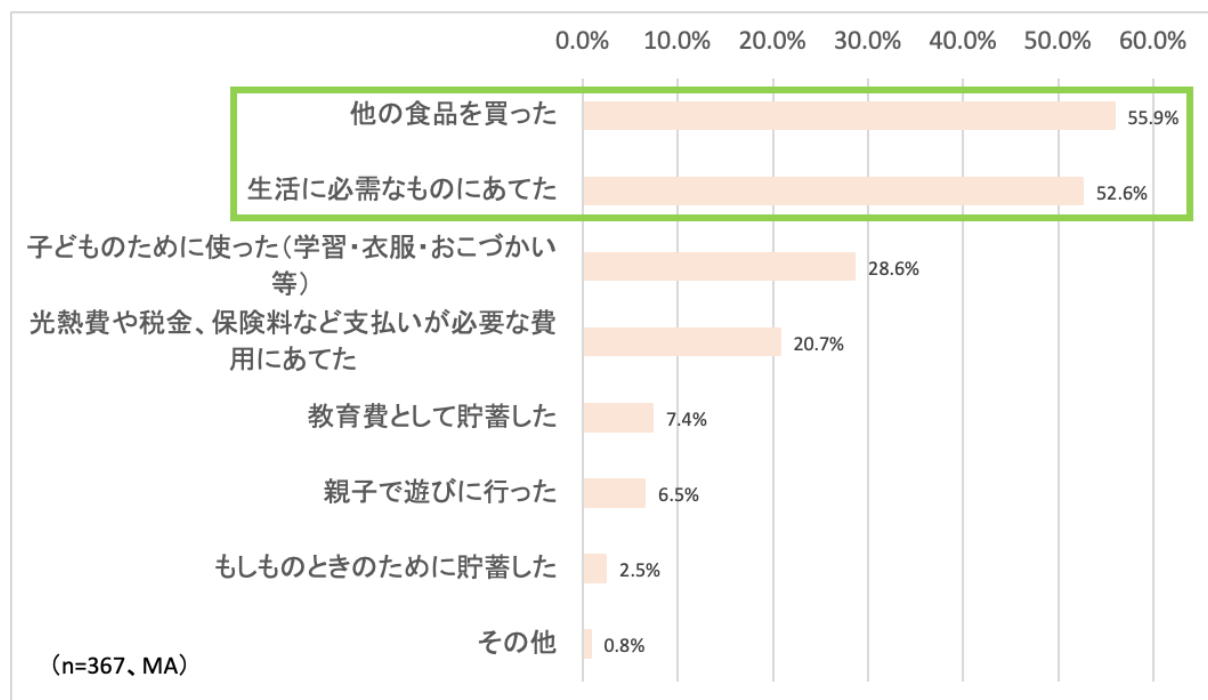
追加でできたこと

保護者
家庭

(節約できた68%の方への質問)
節約したお金でどのようなことができましたか。

食費が節約できたことで、「他の食品を買った（55.9%）」、「生活に必需なものにあてた（52.6%）」、と回答する人が多い。

普段購入しない、嗜好品や少し高価なものを購入することができたという回答も多く、それが気持ちの豊かさや、安心感など、気持ちの変化にもつながっている様子も伺える。



「その他」の回答例：

- 子どもとランチをして、学校生活のいろいろな話を聞いてあげた。
- 大学進学のための貯金
- 赤字で貯蓄を切り崩しているため、足りない部分に当てています。

直接アウトカム（5） 社会資源を知っている、利用している

支援サービスを知っている、
利用している割合の変化

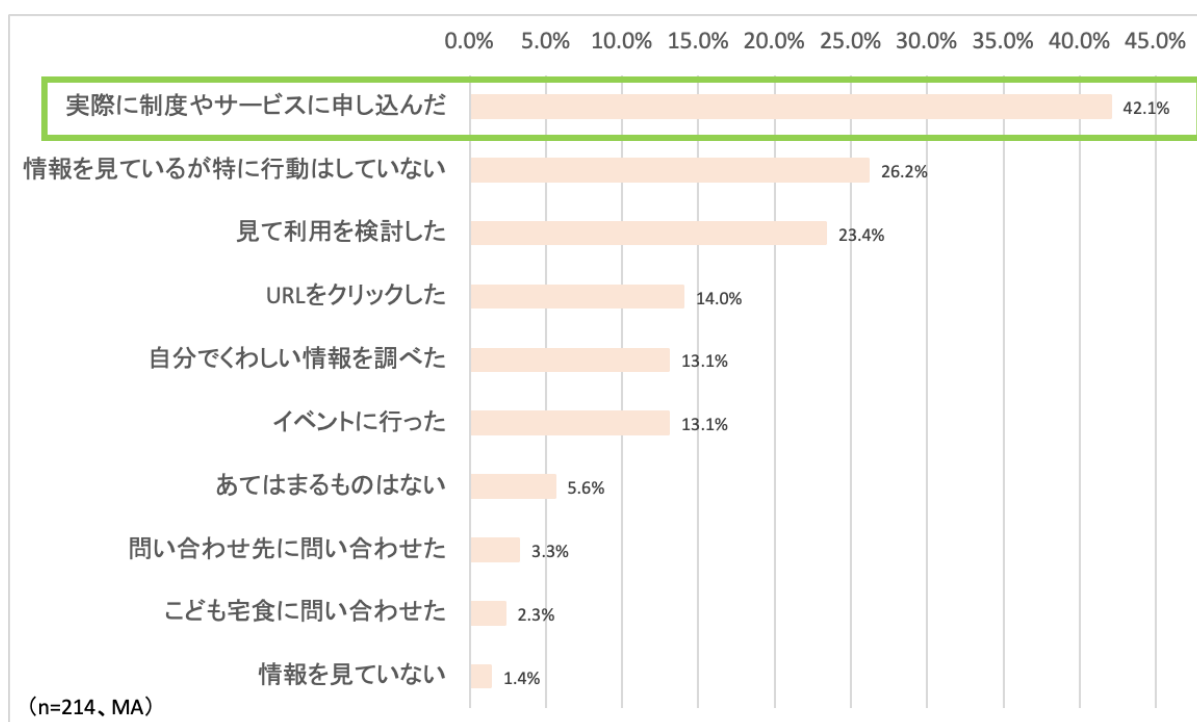
保護者
家庭

こども宅食事務局からLINEにて、様々なお役立ち情報をお届けしてきました。お役立ち情報を見てからのご自身の行動としてあてはまるものを全て選んでください。

本プロジェクトのLINEでの情報配信の平均開封率は60.2%となっており、高い開封率を維持している。加えて、利用者は以下の様な行動をとっている。

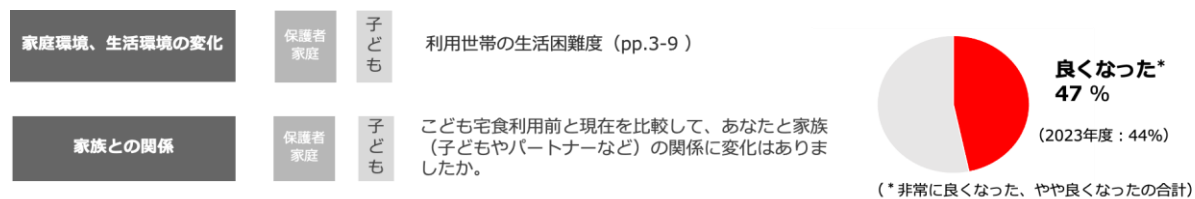
「**実際に制度やサービスに申し込んだ**（42.1%）」と回答する人が最も多く、社会資源へのアクセスや利用につながっていることが伺われる。

宅食からの情報提供により、実際に地域資源を活用する事例も生まれてきている（例：制服・学用品リサイクルショップや地域イベントへの参加）。

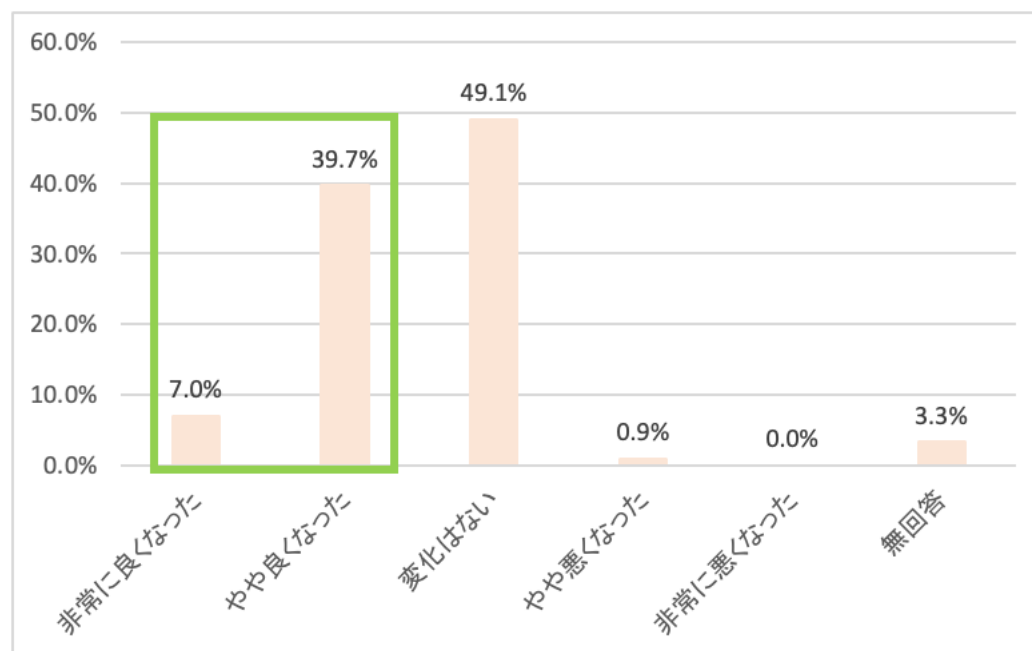


※2024年7月17日～8月4日に実施したLINEでの利用者アンケートより。

中間アウトカム（1）家族の関係がよりよくなる



こども宅食利用前との比較では「**家族との関係**」が良くなったと回答したのは約47%である。親の気持ち、子どもの態度の変化が影響していると考えられる。



2.4 利用者インタビュー

2025年2月に、本事業を開始して以来初となる、利用者の方へのインタビューを実施した。実際の利用者の声から、以下のとおり、本事業が目指しているアウトカム（成果、変化）を確認できたと共に、利用者の生活状況や悩みなどをより具体的に把握できた。またスーパーゴールの達成につながるであろう、アウトカム（成果、変化）を見ることができた。特に、以下の点について、子ども宅食に対するニーズ、期待があることを再確認できた。

- 食支援・情報や体験などへの支援
- 未就学児から18歳（※一部世帯20歳まで）までの長期間にわたる支援の継続
- お子さんの成長や親御さんの孤独によりそう支援

＜インタビューをした利用者の概況＞

- ひとり親家庭の母親、お子さん2人
- 2021年より文京区子ども宅食を利用中

＝＝＝＝＝＝＝＝＝以下、インタビュー内容抜粋＝＝＝＝＝＝＝＝＝

Q：宅食を受け取られてどのようなことを感じられましたか？



こんなにたくさん頂けて、すごいうれしく、本当にありがとうございます。何月に届くというご連絡を頂いて、子どもたちもいつも届くのをもとても楽しみにしています。届くと「何が入ってるかな？」と中を見て、子どもたちはお菓子が好きなので、ポテトチップスやチョコレートなどが入っているとすごい喜んでいきます。あと、フルーツ缶詰が入っていて、それも大好きでフルーツポンチとかにしてよく食べたりします。普段は一切コンビニなどに行かず、買わないものなので、2カ月に1回のご褒美じゃないですけど子どもたちもとても喜びます。私もお米が入ってたり、日用品やメイク道具もすごい助かっています。

アウトカム

食事内容、食に関する課題が改善される
食費の負担が軽減されることなどを通して、家計が楽になる
家族・家庭の心理的ストレスが減少する

Q: こども宅食のLINEでご案内しているものの中には奨学金などの制度についての情報や、体験機会などプレゼントキャンペーンも行っていますが、利用されたことはありますか？



いつもほぼ毎回応募して利用しています。
一番印象にあるのが下着類を頂けた機会です。実は子どもがずっと同じのを使っていて、穴があいていたので頂けて助かりました。
チケットを応募しての野球やバスケなどの観戦も普段全然行けないので、とても助かっています。

お金の面もそうですが、他にパートとかもやってるので、時間もなくて行けないです。機会を頂けると、間を作って一緒に家族で過ごす時間がそれができるっていう感じなのですごくうれしいし、いい時間を過ごさせていただいています。ありがとうございます。

アウトカム

0102 家族・家庭の心理的ストレスが減少する

0104 保護者の余剰時間が増加し、親子でリフレッシュする時間が増える

Q: 文京区こども宅食を利用されるようになってからの生活面または精神面の変化があれば教えてください。



お米など本当に必要な毎日食べるものを頂けるのでだいぶ楽になってますね。昨日も頂いた「もんじゃ焼きの素」があって、みんなで食べたんですけどすごいおいしくて。そういった普段高くてもあまり買わないようなものとかも入ってるのでとても助かっています。
子どもの教育費に充てさせていただいています。

やっぱり逃げ場じゃないですけどすごい温かいというか、多分皆さん同じ思いだと思うんですけど。

それで生活がガラッと変わるとかではないのですが、1カ月か2カ月に1回見守ってくれてるみたいなの、そういう温かさがある。だから「ありがとうございます」とか返しちゃったりします。すごくうれしいんです。

アウトカム

食事内容、食に関する課題が改善される

食費の負担が軽減されることなどを通して、家計が楽になる

保護者が助けを求めることができる

Q：今までにこども宅食にどのようなことを相談されたましたか？



例えば「今ちょっと（家計が）苦しいんだけど、何か助成するものがありますか？」って聞いた時に、「こういうのあるよ」とか、「奨学金の制度あるよ」とかいろいろ調べて教えてくださってとても助かりました。

どこに聞いていいかとかもよく分からないことも、全部宅食さんのチャットで聞いています。

アウトカム

保護者と支援者の接点が増える
家庭がリスクに気づいてもらえる機会が増える
保護者が助けを求めることができる
宅食の利用者が社会資源を知っている

例えばふるさと納税だったら自分のために使うこともできるのに、そういった見えない人のために寄付する方々って今いるんだなって思って、すごい感動と感謝があふれてきました。

食品もメーカーがいつも一緒だなと思っていて、
本当に自分もその企業さんを
応援したい、何か買いたいと思います。
すごい勇気がわきました。本当にありがとうございます。

